

台湾における芸術教育について

福田 隆眞・石井 由理・森下 徹・王 宇鵬*¹

A Study on Art Education in Taiwan

FUKUDA Takamasa, ISHII Yuri, MORISHITA Toru, Wong Yu-Peng*¹

(Received January 6, 2016)

キーワード：芸術教育、台湾、芸術と人文

はじめに

本研究は台湾における学校教育の芸術教育について、教育課程、教材、実践例について調査し、考察を述べるものである^{注1)}。学校教育において芸術教育は、美労、音楽の教科で2004年までそれぞれ実施されていたが、2004年以降は教科を統合し、学習領域という考え方で、美術、音楽、表演（舞踊やパフォーマンスアート）を「芸術と人文」として改訂した。本研究は「芸術と人文」の実施から10年を経た今日の現状報告と展望を試考するものである。

1. 台湾における芸術教育の教育課程

台湾では小学校においては2001年から、中学校においては2002年から教育課程の改訂が行われ、学習領域の設定がなされた。小中学校九年一貫の教育課程において、芸術教育は「芸術と人文」の学習領域でなされるようになった。2000年に公布された「小中学校九年一貫課程要綱」によると改訂の特色を次のように示している^{注2)}。

- ① 教育課程の編成は国民が必要とする基本能力を培うことに重心を置く。
- ② 従来の教科に代えて学習領域を設定し、統合的な教育課程へと移行する。
- ③ 学校を中心とした教育課程の発展のために、学校と教師に自主的な指導の権限を与える。
- ④ 教科書に依存せず、児童生徒の関心や能力に応じて、教材や授業を組み立てていくことが重要である。
- ⑤ 課程、指導、評価を緊密に連携しなければならない。
- ⑥ 国際化の傾向に対応して、小学校5学年から英語などの外国語教育を導入する。
- ⑦ 児童生徒の負担を軽減するために、各学年の授業時間数を減らす。
- ⑧ 従来の中央集権式の教育課程から解放させ、教師や学校、地方などに権限を与える。

その後、この内容は微細な改訂を加えられている。例えば外国語の教育については、現在は小学校1学年から開始されている。

教育の目的は人民の健全な人格、民主的要素、法治観念、人文教養、強健な体と思考、判断と創造能力などの養成、国家意識と国際視野の現代国民を育成としている。具体的に以下のように示している^{注3)}。

- ① 人本心持方面：自分を理解し、他人や異なる文化などを尊重し、鑑賞する。
- ② 総合能力能面：理性や感性を調和させ、知識と行為を融合し、人文と科学技術の整合を図る。
- ③ 民主素養方面：自分なりの思考、コミュニケーション、社会貢献、法律の遵守を行う。
- ④ 郷土と国際の意識方面：郷土愛、愛国心、世界観（文化と生態）など。
- ⑤ 終身学習方面：主体的な探求、問題解決学習、情報や言語の運用など。

こうした教育目的を掲げ、従来の教科の学習から学習領域での学習とした。学習領域の設定は、言語、保

* 1 山口大学大学院教育学研究科美術教育専修

健と体育、数学、生活（1、2学年のみ）、社会（3学年から）、芸術と人文（3学年から）、自然と生活科学（3学年から）、総合活動となっている。

こうして芸術教育は「芸術と人文」の学習領域で行われるようになった。美術教育、音楽教育、舞踊の統合的内容である。

2. 学習領域「芸術と人文」の教育内容

現在、台湾で使用されている芸術と人文の教科書の一つを取り上げ、教育内容を把握するために、単元を記述する^{注4)}。

小学校では以下のような内容構成になっている。

・小学校3学年（上）

- 1 躍動する音符（音楽）：①皆さんは友達だ、②歌を歌おう！ダンスを踊ろう！、③メロディアスな笛の音
- 2 聴いて、どんな音ですか（音楽）：①森林の家族、②音の百宝箱、③メロディアスな笛の音
- 3 興味の点線面（美術）：①点線面はどこにあるの？、②点線面の大集合、③点線面を作る
- 4 私の友達（美術や画家、陶芸の紹介を含んでいる）：①私の友達を紹介する、②違う顔
- 5 身体の魔法師（演劇）：①私の友達を信じる、②あなた、私、彼を観察する、③私は彫刻家だ、④私の身体は会話ができる
- 6 運動会（スポーツや音楽、美術）：①運動会が始まった、②素晴らしい試合

・小学校3学年（下）

- 1 音楽の時間（音楽）：①授業が終わった、②ダンスを踊りに来る、③メロディアスな笛の音
- 2 心ふるわすメロディー（音楽）：①音階のゲーム、②私はあなたと歌を歌う、③メロディアスな笛の音
- 3 色彩の魔法師（美術）：①生活中的色彩、②色彩の変化、③色彩の家族
- 4 私の友達の木を訪問する（美術）：①木の下にいる、②木の姿、③木の下で遊ぶ
- 5 私はスター（演劇）：①超変化、②私の気持ちは道を曲がることできる、③よい気持ちを保持する
- 6 動物の嘉年華会（演劇、音楽、美術）：①動物のカーニバル、②紙人形の劇場

・小学校4学年（上）

- 1 朝日を迎える（音楽）：①夜が明けた、②屋内から出る、③メロディアスな笛の音
- 2 感動的な物語（音楽）：①童話の世界、②昔からの伝説、③メロディアスな笛の音
- 3 美は身の回り（美術）：①対称の美、②反復の美、③芸術品の中での対称と反復、④生活を美しくする
- 4 私の故郷を描く（郷土や画家、美術作品の紹介）：①図画の地図、②故郷の美、③私のふるさとを描く
- 5 生活の魔法師（生活と演劇、生活と美術）：①異なる視点から世界を見る、②不思議な魔法の棒、③魔法使いの伝奇、④体の変化、⑤役割の変化、⑥創意の舞台
- 6 街へパレードをしに行こう（演劇や音楽、美術）：①一緒に準備してパレードをしに行こう、②パレードが始まった

・小学校4学年（下）

- 1 感動的な音楽（音楽）：①歌を楽しく歌う、②音楽が聞こえた、③メロディアスな笛の音
- 2 山野の歌（音楽）：①聞いて！大地は歌を歌っている、②鳥が鳴き、花の香りが漂う、③メロディアスな笛の音
- 3 奇妙な連想（美術）：①何が見えるの？、②想像の美、③想像の楽しみ
- 4 一緒におもちゃで遊ぶ（造形遊び）：①古今のおもちゃで楽しく遊ぶ、②おもちゃを作る、③私たちのおもちゃを大切にしてください
- 5 光と影の魔法使い：①私は影の魔法使いだ、②偉大な光と影の魔法使い
- 6 感恩の季節（音楽、生活、美術）：①甘美な音符、②他人の身になって考える、③愛はどう言う

・小学校5学年（上）

- 1 真、善、美のメロディー（音楽）：①シューベルトの歌、②映画の主題歌、③メロディアスな笛の音

- 2 楽しい祭り（音楽）：①縁日、②感謝と祝福、③メロディアスな笛の音
- 3 皆さん一緒にマンガを描く（美術）：①マンガの学習教室、②マンガを描く
- 4 光と影を捕捉する（美術）：①綺麗な新世界、②光と影の捕捉、③光と影を描く
- 5 GIVE ME FIVE（演劇、伝統的な芸術、美術）：①千変万化の手、②両手の組み合わせの変化は多い、③手の中の世界
- 6 私たちの物語（音楽、演劇、美術、作品の制作）：①音楽の中の物語、②物語を楽しく話す、③図画の物語の本

・小学校5学年（下）

- 1 管弦楽で物語を話す（音楽）：①ピーターと狼、②にぎやかな市場、③メロディアスな笛の音
- 2 私の故郷と私の歌（音楽）：①島の風情、②幼年時代の記憶、③メロディアスな笛の音
- 3 面白い字（書道、美術）：①文字の大図鑑、②文字の芸術家
- 4 奇異な空間（建築、作品の制作）：①面白い空間、②異なる視点から空間を見る、③建築の中の空間、④建築家
- 5 にぎやかな祝典（伝統的な文化の紹介、美術）：①祝典のカーニバル、②獅子舞、③私たちの獅子舞祭り
- 6 自然の美（自然と美術、自然と音楽）：①自然の美を探索する、②自然の楽章、③自然と神話

・小学校6学年（上）

- 1 オペラの狂想曲（音楽）：①オペラの中の喜怒哀楽、②オペラは台湾にある、③メロディアスな笛の音
- 2 クラシック音楽（音楽）：①音楽と対話する、②優美なメロディー、③メロディアスな笛の音
- 3 伝統と芸術の美（美術）：①伝統芸術の美、②浮彫の美、③版画の美
- 4 美しい人生（美術）：①人生の百態、②素晴らしい人生をつくる
- 5 芝居をうつ（演劇）：①スポットライトの下の芝居、②演出する場所を認識する一劇場、③芝居の鑑賞、④異なる国の演出芸術、⑤演出の方法に精通する、⑥芸術の新しい視野
- 6 海洋の家（音楽、演劇、美術）：①海の歌、②海洋のダンス、③海洋についての絵

・小学校6学年（下）

- 1 音楽連合国（音楽）：①歌を歌いながら、世界を見る、②楽器のカーニバル、③メロディアスな笛の音
- 2 素晴らしい月日（音楽）：①夏の歌、②故郷を歌う、③メロディアスな笛の音
- 3 芸術の万華鏡（美術）：①芸術の漫遊、②公共芸術はキャンパスにある、③母校へのお土産
- 4 デザインの狂想曲（美術）：①生活中的優れるデザイン、②優れたデザインを展示する
- 5 舞台を踏む（演劇）：①物語のある芝居の服装、②各国の服装、③造形の変化、④舞台上で造形の試合をする
- 6 大切にしてみたい会いましょう（演劇、美術、音楽）：①思い出、②美しい痕跡を留める、③祝福の音楽

中学校の教科書では以下のような内容構成になっている。

・中学校1学年（上）

視覚芸術：第一課 視覚芸術の言語、第二課 絵画の情感と表現、第三課 人間とカメラ
 音楽：第四課 音楽の言語、第五課 メロディアスな人の声、第六課 楽しく軽快なリズム
 表演：第七課 表現芸術のドアを開く、第八課 パフォーマンスを見て、声を聴く、第九課 光と影の魔法
 使い

四季の賛歌：図で自然を理解する、四季の楽しみ、四季の表現を礼賛する

・中学校1学年（下）

視覚芸術：第一課 造形と創意、第二課 空間と構図、第三課 版画の芸術
 音楽：第四課 管弦楽、第五課 伝統と現代、第六課 音楽の転調
 表演：第七課 奇抜な服装、第八課 化粧する、第九課 詩の舞台の表現を探す
 芸術人生：台湾の心・芸術、台湾の心・音楽、台湾の心・演出

・中学校2学年（上）

視覚芸術：第一課 芸術の世界に入る、第二課 「動く」画像、第三課 筆と墨

音楽：第四課 バロックの芸術殿堂を漫遊する、第五課 クラシック音楽を聴く、第六課 ロマンティックな時空を漫遊する

表演：第七課 音の楽しみ、第八課 互い調子を合わせる、第九課 グローバル化の出演
創意アイデア：広告をよく見る、広告の音楽の秘密を公開する、広告について

・中学校2学年（下）

視覚芸術：第一課 生活の中の民俗芸術、第二課 視覚の創意にチャレンジする、第三課 多様な彫刻

音楽：第四課 聴いて、故郷は歌を歌っている、第五課 光と影の楽章、第六課 超変化

表演：第七課 変化が多い舞台空間、第八課 芝居を見る、第九課 表現芸術の中の魔力

名画：多色の音楽王国、名画を変えてみる、名画は動いている

・中学校3学年（上）

視覚芸術：第一課 視覚の新視界、第二課 建築の旅、第三課 新しいメディア芸術

音楽：第四課 オペラを気楽に聴く、第五課 オペラについて、第六課 音楽の魔法使い

表演：第七課 時空を通り抜けて愛情に出会う、第八課 私のダンス、第九課 シナリオで青春の物語を記録する

芸術の夢：音楽に乗って羽を広げて高く飛ぶ、Wow! Show Time、マークとロゴをデザインする

・中学校3学年（上）

視覚芸術：第一課 民衆の公共芸術について、第二課 包装デザイン、第三課 美術展覧会について

音楽：第四課 台湾音楽の旅、第五課 世界音楽の地図（一）、第六課 世界音楽の地図（二）

表演：第七課 写真と非写真、第八課 新しいものを追い求める台湾現代劇場、第九課 アジア伝統的な芝居を詳しく説明する

卒業の季節：分かれ、音楽に乗って羽を広げて高く飛ぶ（一）、デザインが上手な人

以上が現行の台湾での小学校と中学校の教科書の題材である。この教科書の編集方針として以下のように述べられている^{注5)}。

- 一、本書は、民国九十七年（2008年）に教育部が公布した「国民中小学校九年一貫課程綱要」によって編集したものである。
- 二、本書は、自然や社会、文化の相互の影響を主題とし、視覚芸術、音楽、表演（芸能芸）の学習内容に関連している。生徒とともに生活環境を観察することを希望する。芸術の表現方法で自分の気持ちを表現し、文化に対する理解を深める。
- 三、本書は、生徒が芸術に自発的に接近することを重視し、芸術に興味を持たせることを意図している。よって、生徒に情報収集を促し、自分の芸術の調書を作る。生徒の美感と芸術を鑑賞する能力を高める。
- 四、本書は、3年生から9年生まで、14冊に分ける。毎冊は6ヶ単元がある。授業の週数は、学校の実況によって設定する。上、下学期は16週（48節）である。
- 五、本書は、音楽や視覚芸術、表演の三種類の学習内容を含んでいる。教師に毎週の授業計画をしやすいために、授業時間数は平均分配する。
- 六、本書は、生徒は学習内容を理解するために、生徒の能力によって図版と文字の内容を設定する。

現行の教科書では、教育内容を区別し、視覚美術、音楽、表演の3つの分野がそれぞれの単元として構成され、3つの分野を統合的に扱う教材が一つ設定されている。以前の教科書では、一つの主題について、視覚美術での表現、音楽での表現、舞踊での表現の3つが含まれていたが、現行のものではそれぞれの学習内容を独立させている。

3. 美術教育分野での実践例

「芸術と人文」の学習では、視覚美術と音楽と表演が総合的に扱われるが、実際には前述の教科書の教材でも分かるように、視覚美術、音楽、表演が個別に扱われているといえる。もちろん、内容的な統合を図っ

た教材も開発され、実施している学校もある。これは教育課程の改訂によって、学校裁量の領域が広がり、学校の特色に合わせて教材開発をすることができるようになったからである。

実践例の一つとして、国立台北教育大学附属実験小学校の4学年の美術教育分野の取材を行った。美術の担当のチャン先生は美術教育の授業で留意している点や活動内容について以下のように述べた^{注6)}。(図1, 2)

- ・表現のための素材についてはいろいろな材料や描画用具を使うように気をつけている。子供たちの感情の表現方法にも留意している。授業では5人のチームワークで共同制作をすることもある。そのことで大きな作品を制作し、みんなで鑑賞している。(図3)

- ・台湾の勉強としては、芸術家の物語を調べて学習させている。台湾の近代、現代の作品や絵本や子供向けの作品を作っている作家の歴史なども、インターネット等を活用して資料を収集している。

- ・屋外での取り組みも行っている。台北にはパブリックアートや美術館もたくさんあるので、それらを見学し、作品の実物に触れている。また、屋外や校外でスケッチをしたり、子供の生活を中心としたスケッチをしたりしている。こうした教材は教科書に掲載されている教材ではなく、独自に作成したものである。(図4)

- ・教科書の選定については、音楽の専科の教員が主となっている。音楽の学習では曲の種類や楽譜が必要なので、音楽の教員が優先して選定している。音楽の授業では教科書を使っている。

- ・美術の分野でも、美術専門ではない教員は教科書の教材を授業で扱っている。美術の専科の教員は4学年6クラスの中で2名なので、2週間に一度、全員で、美術の授業研究を行ない、情報交換や専門的な知識や技術の内容を習得している。

- ・美術、音楽、表演の統合的な教材については、少しだが実施している。例えば、3年生の音楽リズムを色で表現するもの、暖色や寒色で表現するというような、音楽と絵画が統合された題材がある。また、4年生では、表演教材としてドラマがある。物語も作成するので人文的要素が含まれている。人形劇で表すものは、インドネシア、マレーシアのワヤン・クリを参考にしたりしている。演劇を通じて劇場の仕事を理解するという社会の学習も含まれている。

以上のような内容を実践例として説明された。芸術と人文の授業の実施での問題点としては以下のようなことを上げられた。

- ・時間数が足りない。週に2時間で1時間は40分なので80分しかないので、作業等の時間が不足している。このことは、ほかの学習内容を活用して、「統整課程」と呼ばれる授業時間の融通を効かせている。例えば、「保健と体育」の学習において歯の健康の時間を活用して、生徒が図で表現することで歯の大切さを認識する。その時に視覚美術の表現学習も行っている。(図5, 6)

従来の「美労」との違いについては、以下のように述べられた。

- ・「美労」では作品を作るだけであり、技術重視の教育であった。だから技術的な上手下手で評価された。「芸術と人文」では、芸術に近づくのが容易になった。芸術を身近な存在として捉えるようになった。伝統的な美術の表現も学習に取り入れて、身近に伝統文化に触れるようにしている。(図7)教える側の教員も意識が変化してきて、技術的な上手下手ではなく、子供の芸術に対する思いが重要であり、子供同士の対話が増えてきた。芸術と人文では、結果としての作品重視ではなく、プロセスを大切にするようになってきた。

以上のように、附属実験小学校では「芸術と人文」学習内容も先進的な取り組みをしている。地域社会や現代文化や伝統文化との関連を持ちながら、教科書以外の独自の教材開発を行っている。そして視覚美術からの総合的な社会や文化の認識を深めようとしている。従来に比べて、視覚美術、音楽、表演の各分野が独立して授業を行うことが多く、視覚美術と音楽と表演の内容を統合的に扱う題材は、学校全体での取り組みで行われることが現実的になっている。それぞれの分野の基礎を習得してから統合的な教材に取り組むことが発達段階としても自然である。

4. 今後の展望とまとめ

台湾では進学率の上昇を受けて1999年公布の教育基本法第11条で「義務教育は社会発展の必要性に応じて

その年限を延長しなければならない」と規定している^{注7)}。その後2007年には民進党政権によって義務教育を12年間とする「12年国民基本教育」の方針が決定されたが、その方針は2008年に政権交代した国民党の馬英九政権にも引き継がれた^{注8)}。2011年の総統就任式典では馬英九総統がその開始を宣言し、その後、国家教育研究院、教育部の技術および職業教育司等が教育課程の研究開発を進め、2014年11月28日には基本理念や教育課程全体の目標などを記した「十二年國民基本教育課程綱要 總綱」が公示された^{注9)}。各教科の詳細な内容などは未発表であるが、全体の教育課程が今後どのような方向に進むかの方向性は示されており、芸術教育に関することにも言及されている。そこで、以下ではその中の芸術教育に関する記述に着目して考察する。

まず「基本理念」では、全人的教育を基盤に「自発」「互動」「共好」を理念とし、児童・生徒を能動的な学習者であるとしている。「互動」とはインターアクションを意味することばであるが、その中には自己、他者、社会、自然とのインターアクションが含まれ、今回の台北調査で取材した実践の実情にも見られた、子ども同士の共同作業や対話などが引き続き重視されていることがわかる。

「基本理念」に基づいて「啟發生命潜能」（潜在能力を引き出す）「陶養生活知能」（生活的知能を培う）「促進生涯發展」（生涯学習を促進する）「涵育公民責任」（公民としての責任感を生む）の四つの目標が示されているが、このうち芸術教育に特に関係が深いのは「陶養生活知能」である。これには学んだものを統合して生活に応用できる能力や、人間関係、チームワークなどが含まれ、科学的リテラシーと生活美学を涵養するものとされる。この生活美学については、続く「核心素養」の説明部分でより具体的に述べられている。「核心素養」とは中核となる能力や素養のことであるが、それは科目中心の知識や技能に基づくのではなく、生活面との結びつきに重点が置かれている。さらに「核心素養」を3つの面と9つの項目に分けた説明では、「溝通互動」（コミュニケーションとインターアクション）の面に「芸術涵養と美感素養」（美的感覚の涵養）が含まれ、芸術もコミュニケーションの重要なツールであるため、芸術的感性および美的感覚を身につけ、活用すべきであるとしている。

さらに、小学校、中学校、高等学校の学校段階別に分けた「核心素養」の具体的な内訳では、「溝通互動」（コミュニケーションとインターアクション）の素養を「規画執行と創新応変」（コミュニケーションとためのツール運用能力）「符号運用と溝通表達」（情報と情報手段に関する知識や能力）「芸術涵養と美感素養」（芸術的感性および美的感覚の涵養）の3項目に分けているが、そのうちの2項目において芸術に関する記述がある。「規画執行と創新応変」の中では、小学校段階においては芸術をコミュニケーション・ツールととらえ、他のコミュニケーション・ツールとともにその能力を生活やコミュニケーションに活用すると述べている。また、中学校段階においては、これに加えて美学に関する基本的概念などを生活に活用していくとあり、芸術教育と生活のより直接的な関連性が述べられている。また、「芸術涵養と美感素養」では美的感覚を豊かにすることによって規範意識や豊かな情操などを身につけることを目指すとし、そのために小学校段階では芸術の創作、鑑賞の基本的素養・能力を身につけ、生活上の美しい物事を体験すること、中学校では各種芸術の理解を通して生活を豊かにし、美的感覚を体験的に身につけること、高校ではそれらに加えて芸術の創作と社会、歴史、文化との関連を理解し、美しい物事を鑑賞、分析、構築、分かち合っていくことが掲げられている。

このように、芸術を、学習者自身の現実から切り離された抽象的な知識や教科の中だけにとどまる表面的なスキルなどの静的なものとしてではなく、学習者自身が今まさにその社会の一参加者として主体的に参加しており、その生活の中にも継続的に存在している動的な人間の活動として位置づけようという意図が明白に表れている。これは「芸術と人文」がこれまで目指してきた方向性の再確認であり、この方向性を継続して強化していこうとするものだといえる。また、芸術のように複数の科目を含む領域に関しては、従来のように領域学習の形で行うことも可能であるし、学校の課程發展委員会の認可を得たうえで科目として行うことも可能であると記述されており、学校現場の実情に合わせられるように柔軟性をもたせたものとなっている。

注

1 本研究は平成27年度、山口大学学長戦略経費「教職グローバル・マインド育成のための参加型実践教育活動推進事業」の一環として、「アジアにおけるグローバル化と伝統文化の芸術教育の調査研究」の報告の一

部である。

2 「修訂課程及特色」 <http://teach.eje.edu.tw/9CC/brief7.php>

3 「課程目標」 <http://teach.eje.edu.tw/9CC/brief3.php>

4 本稿では以下の教科書による教材を紹介する。

周淑卿（主編）『国民小学芸術與人文』台北，康軒文教事業股份有限公司，2013

周淑卿（主編）『国民中学芸術與人文』台北，康軒文教事業股份有限公司，2011

5 前掲書 4

6 福田と森下は2015年12月2日に国立台北教育大学附属実験小学校を訪問し、視覚美術からの教育実践を行っている4学年の美術担当のチャン・ユーパー（誉羽菩）先生にインタビューを行った。

7 岡村志嘉子「(台湾) 高級中等教育法の制定」2013

http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_8320922_po_02570109.pdf?contentNo=1 2015年12月27日閲覧

8 前掲 7

9 教育部「十二年國民基本教育課程綱要 總綱」2014

<http://www.rootlaw.com.tw/Attach/L-Doc/A040080081012600-1031128-1000-001.pdf> 2015年12月27日閲覧



図1 国立台北教育大学附属実験小学校



図2 チャン・ユーパー先生



図3 台北アートマップ制作



図4 台北の建築のスケッチ



図5 歯の健康の学習での表現学習



図6 歯の健康の学習での表現学習



図7 水墨画の学習